

ディポネゴロ大学との国際交流協定調印式に出席して

法学部 今中比呂志

(一)

私は、去る3月7日から14日までの一週間、法学部の紺谷浩司教授とともに、インドネシア共和国のスマラン市にある国立ディポネゴロ大学に出張した。広島大学法学部とディポネゴロ大学法学部および社会政治学部との間の国際交流協定調印式に出席するためであった。

ディポネゴロ大学との交流の始まりは、昨年9月の私の同大学訪問が最初であった。その際の私のインドネシア訪問は、当時、広島大学法学部とハワイ大学ロースクールとの間で推進されていた海外学術研究——「南西太平洋諸国における紛争解決制度の研究」——の一環として行われたものであった。ディポネゴロ大学では、モルヨノ学長をはじめ大学の多くのスタッフたちが、広島大学との学術交流に積極的で、社会政治学部で行われた共同セミナーでも、相互に協力しあいましょうということになった。大学では、とくに広島大学総合科学部の久保泉教授のもとで学術博士号を与えられた数学者のムスタフィド氏をはじめ、元日本留学生で大学スタッフの人のとの大きな協力を得ることができた。

(二)

昨年12月17日、ディポネゴロ大学の法学部長ムラディ氏、社会政治学部長ワレラ氏、医学部長スボウォー氏が来広して、国際交流協定の検討が行われた。そして本年1月9日の法学部教授会で、ディポネゴロ大学との交流協定が承認された。

3月7日の福岡空港は晴れ、午後4時半発

のガルーダ航空機で一路インドネシアのデンパサールまで約6時間。クタ・パレス・ホテルで1泊、翌朝7時15分発のガルーダでジョグジャカルタへ。ジョグジャカルタで2泊して、その間アヌン夫人やガジャ・マダ大学のルクマン氏の案内でガジャ・マダ大学や地方裁判所などを訪問する。裁判所では、昨年知り合った書記官ルジプト氏と再会した。



3月10日、私たちのために、わざわざスマランから迎えに来たムスタフィド氏およびスコチョ氏とともに、大学の公用車でスマラン市に向かう。車は雨の中、有名なディエン高原を越えて、約3時間半でスマランのプトラ・ジャサ・ホテルに着いた。ホテルでは夕方7時から、ウェルカム・パーティだという。パーティにはモルヨノ学長をはじめ、ムラディ法学部長、ワレラ社会政治学部長、スボウォー医学部長その他、約20名近くのスタッフが参加して暖かい雰囲気の中で行われた。

(三)

3月11日は、ディポネゴロ大学のスタッフたちと朝食の後、大学に向かう。午前10時か

ら12時まで、講堂で講演会である。約60名のスタッフを前にして、まず私が「ディボネゴロ大学との交流協定について」(約15分)、紺谷教授が「日本の法学教育について」(約1時間)講演した。質疑応答では、戦後日本経済の高度成長と高等教育の関連についてなど、紺谷教授に質問が集中して、日本の社会や大学教育の現実についての関心の高さをあらためて痛感させられた。

ディボネゴロ大学との国際交流協定の調印式は、午後12時半から1時までの30分間に同じ講堂で厳粛に行われた。法学部と社会政治学部の二冊の協定書(英文)の全文が読み上げられた後、私とモルヨノ学長がそれぞれ挨拶を交わし、法学部長と社会政治学部長が協定書に調印した。その後、別室で乾杯して調印式は無事に終了した。



昼食は、三人の学部長などのスタッフたちとともにインドネシア料理のスープ、サテ・アヤン、イカン・ゴレンなどの御馳走になった。夕方は、7時からサヨナラ・パーティが催された。インドネシア料理店のカラオケで学長スタッフのジョコ氏や国際法講師のスコチョ氏などが美声でブンガワン・ソロなどを披露したのにたいして、私は紺谷教授と「故郷」の合唱で返礼した。

#### (四)

3月12日は、午前9時半から、共同セミナーが行われた。私は社会政治学部で「日本の政治学の現状について」の講演を、また紺谷教

授は法学部で「日本の民事訴訟法について」の講演を依頼された。インドネシアには政治学会といった全国的レベルの学会組織は存在しないこと、また政治学研究はアメリカの影響が強いこと、出席したスタッフの専門は国際関係、政策分析、人口研究、行政学、地方政治論、イスラム法、中東研究、社会学などであったことを記しておこう。

3月13日午後、スマランに別れを告げて、私たちはセレベス経由で、再びデンパサールに向かった。バリ島クタで見た美しいサンセットを思い出に、福岡空港に無事帰国したのは14日午後のことである。

ディボネゴロ大学との大学間共同研究が可能となったことにより、これまでの私たちのハワイ大学ロースクールとの間の国際学術研究にも新しい展望が与えられることになった。ハワイ・インドネシア・ヒロシマを軸とする環太平洋地域に関する比較法的研究がそれである。国際平和文化都市ヒロシマにふさわしい国際的学術研究の充実と発展を期待しつつ、インドネシア出張の報告を、ひとまず終えることにしたい。



[付記：文中には記すことができなかったが、私たちのインドネシア旅行およびディボネゴロ大学との国際交流協定の締結に当たっては、多くのインドネシア留学生たちのバック・アップがあったことを述べておきたい。とくに広島大学医学部脳神経外科のザイナル・ムッタキン氏および医学部薬学科のアマン氏には、一方ならぬお世話になったことを感謝しておきたい。]